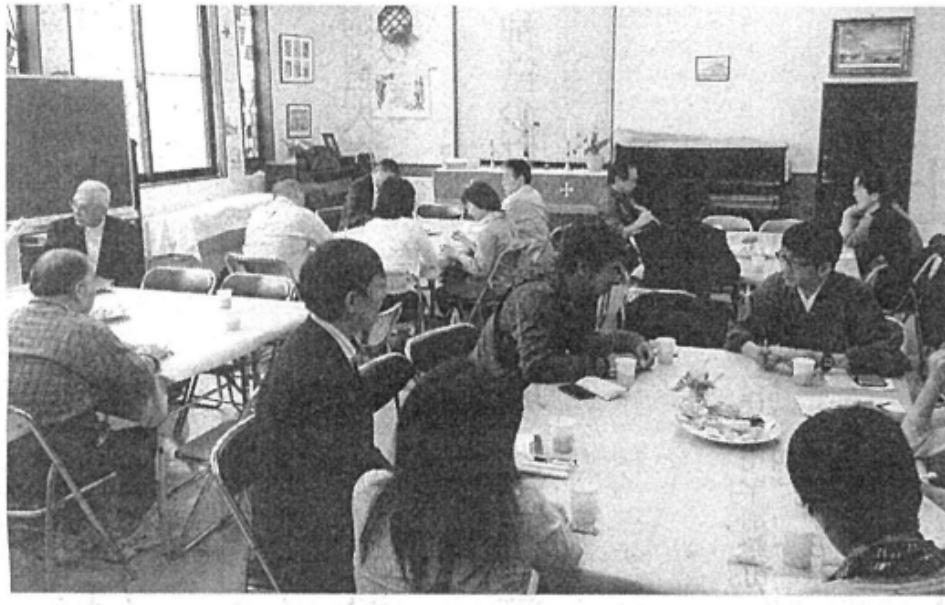


●通信員だより●

今後の可能性を感じさせた意見交換会



臨床宗教師広めたい 九州支部第2回講座

臨床宗教師九州支部は5月17日、熊本市の日本福音ルーテル大江教会で、「臨床宗教師」の入門講座を開いた。被災地や終末期医療の現場で苦しみや悲しみに直面した人に對して行う、宗教者ならではの心のケアを学ぶ。2月に続き2回目。

東日本大震災では、宗教者が立場を超えて連携し、被災者の心のケアに取り組んだ。これを背景に、地元の東北大に臨床宗教師を養成する実践宗教学寄附講座が開設される。医療・福祉・教育関係者や被災地から移住した。これまでに延べ57人が修了し、このうち九州の宗教者は5人。東北大では5月20日から第5回臨床宗教師研修が始ま

り、九州支部主催の第1回入門講座の受講者から3人が参加している。「布教はせず、宗教・宗派を超えて悩む人に寄り添うことが原則」。本來は僧侶・牧師・神主などの宗教者が対象だが、局面上では宗教者の存在は大きかった。そして個人対個人の關係の中で信頼

が築かれていた」と語り、宗教者には「出る幕」があることを実感し、「この

講演後のグループワークでは、参加者同士の意見交換が行われた。被災地からの移住者も「現場に立つ!」という言葉が心に響きました。被災の場・学びの場・分かれ手を受け止め、僧侶・牧師・神主さんたちが宗教宗派を超えて協働した。また、人の生死に関わる宗派を超えて活動し、その目標として活動し、そしてやがては医療機関や福祉・教育などの「公共の場」で、臨床宗教師が活躍できる現場の開拓にとどまらず、地域社会の生き生きとした発言と語っていた。参加者らの生き生きとした発言も手を広げられれば、と

い言葉。味方になってくれる人がいると思えることが、本当にうれしい」と語っていた。参加者らの生き生きとした発言に、宗教者による心のケ

アが熱心に求められていくことを実感し、「この照寺副住職、臨床宗教

求めこそ今後の可能性」と、手応えを感じた。